

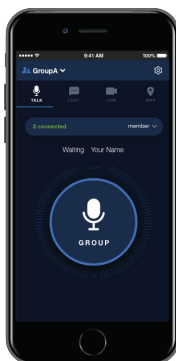


Buddycomを導入して良かったこと

“時間と燃料代の削減につながり 忘れ物が減りました”

水産養殖

マグロ養殖



Buddycomはスマートフォンにインストールされて常にポケットに入れており、スピーカマイクでの操作のみですので、スマートフォンの水濡れなどの破損や作業着ポケットから落とすといったダメージが無くなったのは効果の一つです。

漁場へ行く際、船で移動するのですが、Buddycomを導入してからは、どこにいてもリアルタイムに情報共有が行えるため、先行している船が忘れ物をして、全従業員に一斉連絡をし、近くの船や丘のメンバーの誰かが届けることができます。やはり、船で出発してから戻るとなると、時間も燃料代も2倍かかってしまうところ、それらの削減につながっています。

天候や作業の進捗具合によっては作業内容を急遽変更したりもしますが、Buddycomを使うことで伝達が便利になり、一旦打ち合わせに戻るといったことが無くなり、業務の進行がスムーズになりました。



Buddycom バディコム





導入前の課題

マグロを養殖するいけすでは、海風の音や、船の機械音により、作業者同士のコミュニケーションが取りづらいことや、作業中は手袋をしているため電話などによる通話も困難なことにより、必要な情報の連携をリアルタイムで行えないという課題がありました。また、管理者が作業者の居場所も把握できず、有事の際も、迅速に情報を伝えることができませんでした。

導入した理由

導入前に、いけすや船上などで実証実験をさせていただき、想定どおりの使い勝手のよさでした。何よりBuddycomは、潮水・潮風に強い堅牢なスピーカーマイクをペアリングして使うことができるため、手袋をしていても操作できる簡便性が導入の決め手でした。



Buddycomひとつで 船上、給餌場、陸上 施設での業務連絡が可能。

マグロを養殖している漁場で業務を行う際に、人が足りない漁場への増員要請や、撤収した現場から別の現場へ移って欲しい場合などの現場のコミュニケーションツールとしてBuddycomを活用しています。現状大きな緊急事態は発生しておりませんが、海での作業ですので、「作業が終わったので、これから行きます・戻ります」といったような安否確認に近い運用もしています。

また、我々は各漁場で定点を決めて赤潮のチェックをしています。マグロの給餌業務が中心となりますが、赤潮の被害を防ぎたい際に、陸上施設で赤潮のチェックをしつつ、給餌の続行、給餌の停止、待機などといった連絡を従業員間で迅速に行っています。

避難訓練では津波の危険性があると想定し、各養殖現場に作業員を配置し、基地局から従業員全体にBuddycomで一斉連絡を出しました。これにより、情報連携がスムーズになり、現場から避難する際などの移動時間の短縮になり効果を実感しました。



導入検討中の方へメッセージ

水産養殖業は人材不足が慢性的でなかなかIT化が進んでおりませんが、Buddycomを使ったコミュニケーションの向上で、人員と時間の効率化につながると思っています。そういった課題をお持ちの方にオススメです。



その他の取り組み

私たちは、マグロをいかに効率的に大きくしていくかが事業の収益の鍵となっていますので、魚体測定でAIを使い体重を測り、マグロに最適な量の給餌効率良くを行う取り組みもしています。



株式会社サイエンスアーツ

WEB: www.science-arts.com
Service: www.buddycom.net
お問い合わせ: info@science-arts.com

